

困難女性支援 × はじめの 100 か月の育ちビジョン

# 子どもの育つ姿から、私たちの生きる道筋を探そう ～すべての人の中の「子ども」がひびきあう世界へ～

日時：2026年2月10日（火）13時～14時半

場所：上尾公民館 501・保育：401（上尾市ニツ宮 750）

講師：山口有紗さん（小児科医・小児科子どものこころ専門医）

定員：会場参加 50 人 参加費：無料 ※講師は 14 時半までオンラインで講演を行います

対象：子育て中の方・子育て支援に関心のある方

保育：要事前申込み（1 人につき 300 円）

申込み方法：右のQRコードまたは下記連絡先の電話・メール

講演会終了後～15時半：「地域でのつながりをつくろう」



講演会・保育  
申込み  
フォーム

「はじめの 100 か月の育ちビジョン」ってなあに？

子ども家庭庁から出された、赤ちゃん子どもや養育する人の権利を保障し支えるビジョン。山口有紗さんは、どのようにとらえているのでしょうか。

赤ちゃん・子どもはどう生きているの？どう育つの？

山口有紗さんが診察室での子どもたちから教えてもらったことや、最新の脳科学研究等から、改めて子どもの育ちを知っていきます。

子どもたちが安心して成長でき、必要な時には SOS を出せたり、その子の中のレジリエンス※が育っていってほしい。また、そんな状態に気づける関係でありたいと親たちは願う。

※レジリエンス：さまざまなつらさ（ストレス）に対して、それを跳ね返す力、弹性、しなやかさ

自分だけの力で生きていくのは難しい子どもたち。

けれども、親や家族に SOS を出してくれるとは限らないのではないだろうか。

子どもたちは親思い。親だからこそ、言えなかったりするかもしれない。

コミュニティ・レジリエンスを持つ街に――

子どもに限らず、女性も、何かあれば、たちまち生きるのが困難な状況に陥ります。妊娠を誰にも言えず、人知れず出産し、赤ちゃんが命を落してしまうことも。相手の男性にとっても、それはどんなことなのでしょう。そんな悲しい事件が起こらないように…。

たまたま運よく生き延びられた、というだけでなく、誰もが幸せに生きられるように…。

誰もが、誰かのレジリエンスになりうるのだから――

どんな状況にある人も、支えられたり支えたりしながら、安心して生きていく、そんな街をみんなでつくりたい。

大人になった人たちが、ひとりひとりの中にある「子ども」に出会うことから、目の前で困っているその子、その人の側に立つことができるのかもしれません。

子どもたちの生き方から教えてもらいましょう。

一緒に、考えてみませんか。



講師：山口有紗さん プロフィール  
小児科専門医・子どものこころ専門医、  
公衆衛生学修士。高校中退後、イギリス  
での単身生活や国際関係学部での学び  
を経て医師となる。現在は子どもの虐待  
防止センターに所属し、地域の児童相談  
所などで相談業務に従事。国立成育医療  
研究センター共同研究員、こども家庭庁  
アドバイザー。近著は「子どものウェル  
ビーイングとひびきあう——権利、声、  
「象徴」としての子ども」（明石書店）、  
「きょうの診察室：子どもたちが教えて  
くれたこと」（南山堂）。

## 【お申込み・お問い合わせ】

認定 NPO 法人彩の子ネットワーク

住所：〒362-0014

上尾市本町2-13-8根貝戸団地1階

電話：048-770-5272

FAX：048-770-5270

メール：office@sainoko.net

講演会・保育申し込みフォーム→

